

膜性腎症

膜性腎症について①

✓中高年者においてネフローゼ症候群を呈する疾患のなかで**最も頻度が高く**、その多くがステロイド抵抗性を示すことから、重要な疾患と考えられてきた

✓病理診断で確定するため、腎生検の実施は必須である

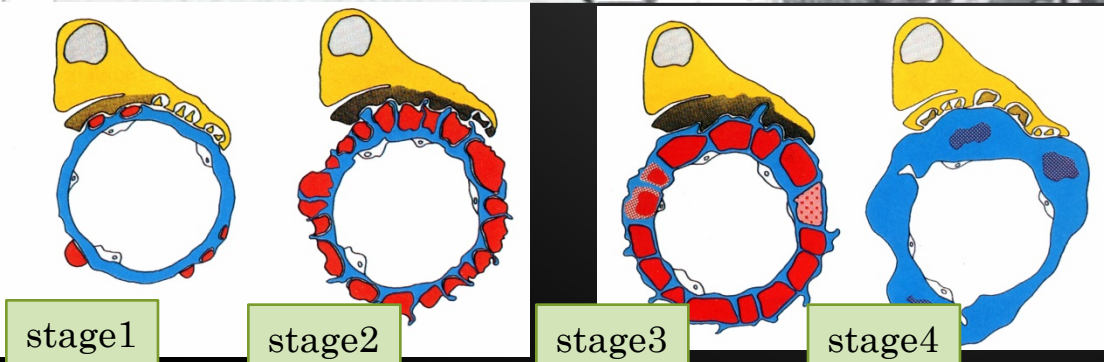
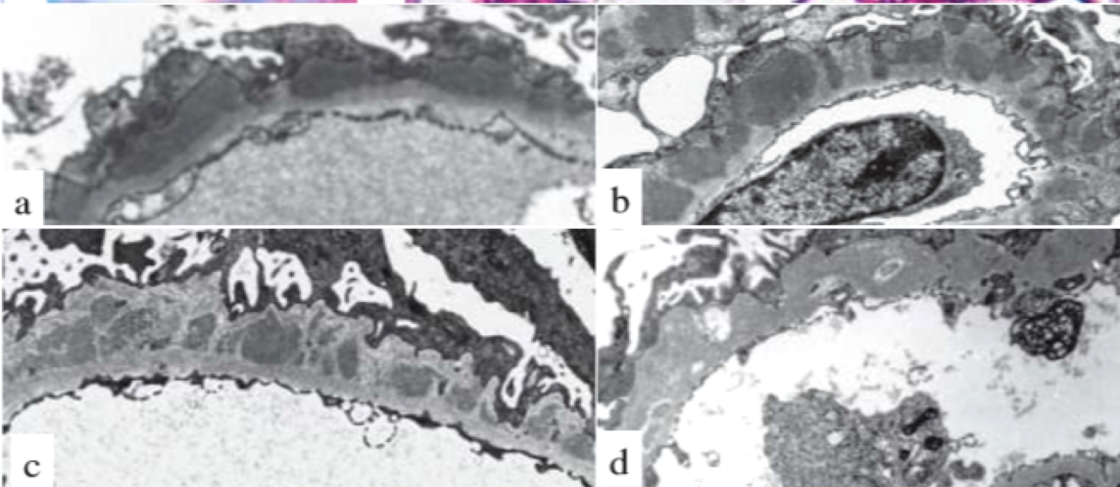
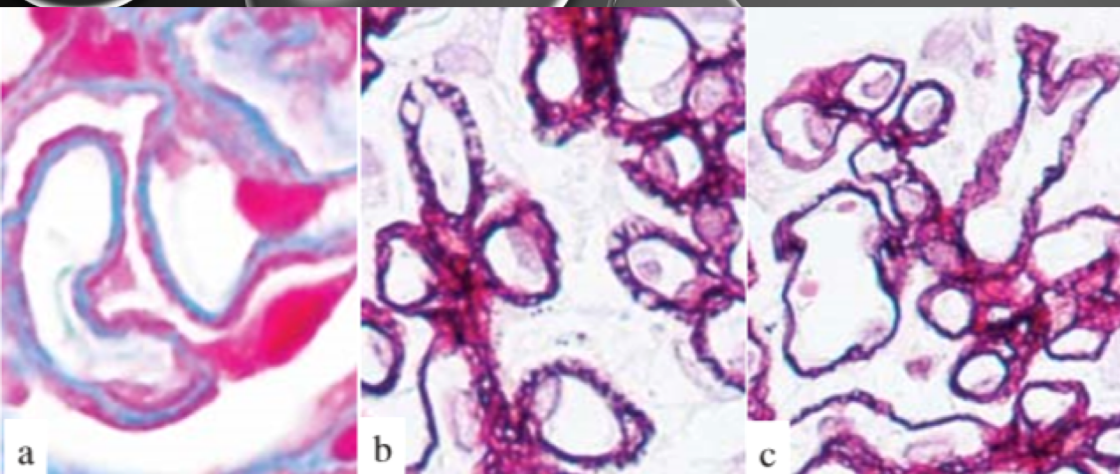
✓しかし、その病態を総合的に判断すると、ある程度予測が可能。中高年者に多く、ネフローゼ症候群を呈しても、尿蛋白の増加が必ずしも急速ではない。したがって、浮腫なども目立たないため、むしろ脂質異常症などが本症発見のきっかけとなることもある。血尿は約20%にみられ軽度なことが多い

膜性腎症について②

✓ 膠原病や悪性腫瘍などに続発する例や抗リウマチ薬などによる薬剤性の例も知られており、まずこれらの可能性を検索する必要がある

✓ 一方、特発性膜性腎症は糸球体上皮の抗原を標的とする抗体の集積によって、局所で発症するとの説が以前から有力であり、その抗体として IgG4 が報告されているが、最近、欧米および中国で特発性膜性腎症の原因の 70～80% が M 型ホスホリパーゼ A2 受容体抗原が原因であると報告されている

膜性腎症について③



光顕:

a. GBMの**上皮下**にdepositが赤色調に染まる。stage1

b. GBMの**spike**や**空胞状変化** stage2

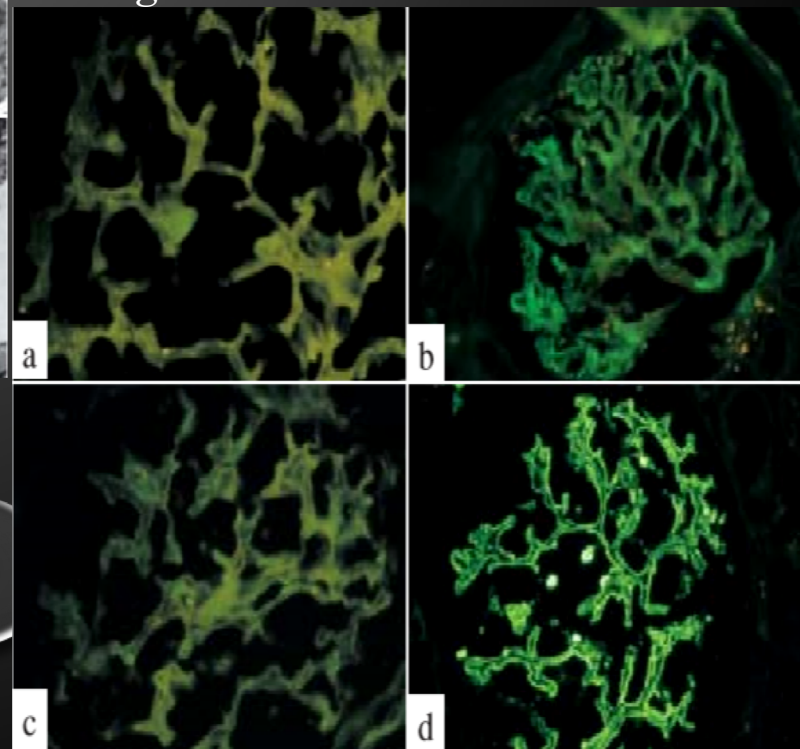
c. GBMの**二重化像**、**鎖状変化** stage3

蛍光: **特発性膜性腎症IgGサブクラス**

a. IgG1 b. IgG2 c. IgG3 d. **IgG4**

電顕:

a. stage1 b. stage2 c. stage3 d. stage4



膜性腎症について④

✓治療アルゴリズム

